

河川砂防技術研究開発公募 地域課題分野(砂防) 平成23年度採択テーマ

事後評価結果

| 研究テーマ名   | 研究代表者           | 評価 |
|--|-----------------|----|
| 高原流域における豪雨による土砂災害軽減に関する研究(研究期間:H23年~H25年)  | 京都大学<br>准教授 堤大三 | B  |
| <p>&lt;研究概要&gt;<br/>神通川水系高原川流域を対象とし、豪雨によって引き起こされるフラッシュフラッドや急激な土砂流出等の現象に関して、現地モニタリング、数値シミュレーションの手法を用いて災害の軽減、防止手法を検討した。具体的には、1)現地観測によりフラッシュフラッド現象を把握、2)フラッシュフラッドの要因の抽出・メカニズムの理解(短期集中降雨、土層深分布、河道閉塞決壊)、3)レーダ雨量情報を活用したフラッシュフラッド予測モデルの構築、4)掃流砂モニタリングによる流砂量の連続観測、5)足洗谷からの土砂流出量の高精度モデル化、6)山地流域特有の土砂流出特性把握(季節変動・河床変動)を行った。</p>                    |                 |    |
| <p>&lt;事後評価コメント&gt;</p> <p>本研究では、高原川流域において発生する降雨に伴う土砂流出、フラッシュフラッド等の現象のメカニズムとして、山岳地域の降雨分布特性の把握のための観測、フラッシュフラッドの観測・モデル化、土砂流出現象のモニタリング・モデル化の解析検討を行い、山地流域からの土砂生産・流出量を推定できる手法について提示しており、土砂管理、土砂災害の防止軽減に対して期待できるものである。</p> <p>今回、各研究項目における成果を一体的に活用する方法について課題が見られた。今後は、本研究成果を基に、土砂生産、流出モデルの高度化を図るとともに、研究全体の統合的な活用方法について、実用化に向けた検討を進めて頂きたい。</p> |                 |    |

※評価基準

- A: 研究目的は達成され、十分な研究成果があった
- B: 研究目的は概ね達成され、研究成果があった
- C: 一定の研究成果があった
- D: 研究成果があったとは言い難い